

# << 注意報 >>

岡病防第3号  
令和2年4月22日

各関係機関長殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察注意報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

## 令和2年度病害虫発生予察注意報第1号

令和2年4月22日  
岡山県

病害虫名 **モモせん孔細菌病**

1. 発生が予想される地域

県下全域

2. 発生 of 蔓延が予想される時期

4月下旬以降

3. 予想される発生程度

**多**

4. 注意報発令の根拠

- (1) **4月21日の巡回調査における春型枝病斑(図1)の発生圃場率は35.7%(28圃場のうち10圃場で発生)**で、平年値(10.0%)より高かった。春型枝病斑は、平成29年以前の13年間では4月時点での発生を認めなかったが、昨年、一昨年に続き、本年度も確認され、**発生時期も早い**。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 前年のモモせん孔細菌病の発生(図2)は平年より多く、越冬伝染源量が平年より多かったと考えられる。
- (2) 発病枝(図1)は伝染源となるので見つけ次第除去し、処分する。また周辺の発病葉もつみ取る。
- (3) 果実への感染を防止するため、発生圃場では早めに袋かけを行う。袋かけは、下記の薬剤を散布後速やかに行う。
- (4) 病原菌は葉や果実の自然の開口部(気孔など)や傷口から侵入するので、風当たりの強い圃場では防風ネット等の防風対策を施す。
- (5) 令和元年度植物防疫情報第9号(令和2年3月10日発表)参照。

【主なせん孔細菌病の防除薬剤】

(R2. 4. 22現在)

薬剤名	農薬使用基準			成分名	FRACコード 注3)
	希釈倍数	時期	回数		
ストレプトマイシンを含む剤 [ストマイ液剤20 アグレプト液剤、同水和剤 ヒトマイシン液剤S マイシン20水和剤 アグリマイシン-100 <sup>注1)</sup>	1,000～2,000倍 1,000～2,000倍 250～500倍 1,000～2,000倍 1,500倍	収穫60日前まで	総使用回数 2回以内	ストレプトマイシン ストレプトマイシン ストレプトマイシン ストレプトマイシン オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン	25 25 25 25 41・25
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	オキシソリニック酸	31
バリダシン液剤 5	500倍	収穫7日前まで	4回以内	バリダマイシン	U18
マイコシールド <sup>注1)</sup>	1,500～3,000倍	収穫21日前まで	5回以内	オキシテトラサイクリン	41
マスタピース水和剤 <sup>注2)</sup>	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—	シュードモナス ロデシア	未

注1) アグリマイシン-100とマイコシールドは同じ有効成分（オキシテトラサイクリン）を含む。

オキシテトラサイクリンの総使用回数（5回以内）に注意して散布する。

注2) マスタピース水和剤は微生物殺菌剤であるため単用が望ましい。

注3) FRAC(<https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/>)による農薬有効成分の作用機構の分類。  
同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、**この時期、早生品種では薬剤の使用時期（収穫前日数）に十分留意する必要がある、特に早生品種との混植園での薬剤散布時には必ず確認する。**



図1 春型枝病斑（囲み）※1年生枝に紫褐色のへこんだ病斑を生じ、芽枯れを伴うことが多い

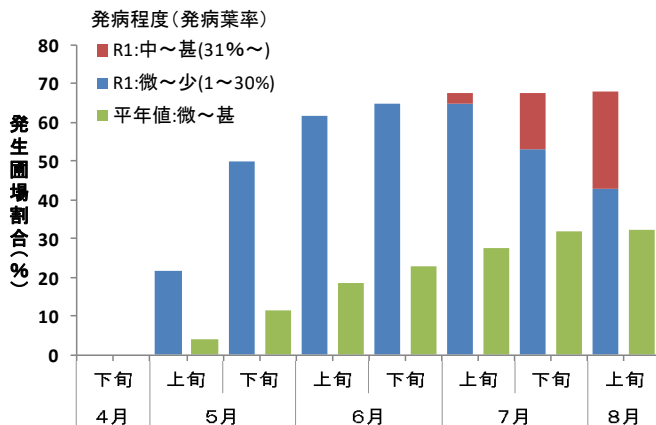


図2 前年の岡山県内におけるモモせん孔細菌病の発生推移  
(岡山県病害虫防除所による巡回調査データ)  
(4月～5月及び8月は7地点28圃場、6月～7月は10地点34圃場)

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

